

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) フジコピアン株式会社	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 555-0012 大阪市西淀川区御幣島五丁目4番14号
----	---------------------------	----	---

本票作成 部署名：フジコピアン株式会社 生産技術部 生産技術グループ 設備保全チーム

主たる業種	分類コード	15	業種名：印刷・同関連業
-------	-------	----	-------------

事業の概要 情報記録媒体の製造販売。当岡山工場では、情報記録媒体のインクリボン・修正テープ・機能性フィルムの製造をしている。 従業員数：176人

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	岡山工場	勝田郡勝央町太平台12番地

特定事業者の該当要件  ①燃料等原油換算1,500kℓ以上  ②バス・トラック100台、タクシー250台以上  ③CO<sub>2</sub>換算3,000t以上  
(●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 29 )年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	13,851 t CO <sub>2</sub>	15,226 t CO <sub>2</sub>	14,920 t CO <sub>2</sub>

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 29 )年度排出量
	①	岡山工場	15,226 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況 計画期間：平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 ( 5 箇年度)

<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 29 )年度削減実績	目標削減率	目標達成
<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	8.0 %	3.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量		
	基準年度生産数量：180百万m <sup>2</sup>	基準年度	( 29 )年度	目標年度
	目標年度生産数量：200百万m <sup>2</sup> 平成29年度生産数量：215百万m <sup>2</sup>	77.0	70.8	74.6
	t CO <sub>2</sub> /百万m <sup>2</sup>	t CO <sub>2</sub> /百万m <sup>2</sup>	t CO <sub>2</sub> /百万m <sup>2</sup>	

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 29 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

・省エネ法の管理標準に基づき、エネルギー使用状況を把握しながら省エネ対策に取り組んだ。  
 計画に盛り込んでいる省エネ設備の更新を着実に実施しながら温室効果ガス排出量削減に取り組んだ。  
 ・平成29年度削減実績：8.0%で前年度削減実績：1.7%から大幅に向上した。  
 (前年度に比べてCO<sub>2</sub>排出量は1,149t/CO<sub>2</sub>増加となったが、新コーターの稼働も含め、前年度生産数量から約26百万m<sup>2</sup>増加し、原単位当たりの排出量が70.8tで、前年度75.7tに対して4.9t削減できた)  
 ・今後とも、計画した措置を確実に実施すると共に、追加の削減対策を検討する。

**【推進体制】**

岡山工場 省エネルギー推進組織（総括責任者：岡山工場長 担当部署：設備保全チーム）  
 体制：ユーティリティ点検・設備点検（日常・定期） ISO14001の取得：2004年4月30日  
 ISO取得から品質中心の会議体から環境も考慮した会議を環境・品質会議に改め環境に関する協議を進めることとした。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山工場	(29年度実施分) ①OA機器の節電とこまめな消灯の徹底 ②蒸気ボイラーを高効率貫流ボイラー（重油→LNG）に更新によるCO2削減量：1,408 t/年（平成29年度） ③噴霧式加湿装置の増設によるCO2削減量：32 t/年（平成29年度） ④コンプレッサー台数制御によるCO2削減量：5t/年（平成29年度） ⑤サクシヨンブロワーのインバータ制御によるCO2削減量：59 t/年（平成29年度） (今後実施予定分) ①受変電設備更新による損失量の低減：37t/年（平成29～31年度） ②脱臭装置熱回収ボイラー熱交換器取付けによる削減：16 t/年（平成31年度） ③エージング倉庫全熱交換器取付けによる削減：33 t/年（平成30年）

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

①冷房設備の使用電力低減の為、「おかやま発クールビス宣言」の参加主旨に賛同し参加宣言  
 ②屋根の断熱塗装を2011年8月から実施で19 t CO2削減  
 ③ドライヤー室の熱交換機設置によるCO2削減量：62 t/年間